



© 2007 Stein Arild

## フィリピン先住民との合同シンポジウム

# 「アジアの狩猟採集民の現状」

## アイヌおよびマヌワ民族を中心に

2019年2月22日（金）14:00～17:00 東京大学本郷キャンパス 理学部2号館講堂

（本郷キャンパス理2号館 地図URL）[https://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01\\_06\\_02\\_j.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_06_02_j.html)

マヌワ民族（Mamanwa）は、フィリピン南部ミンダナオ島北部の山岳地帯に数千人が暮らす先住・狩猟採集民です。1978年日本の調査隊により、フィリピン最古の先住民（First People）であると推定されました。現在、その固有の言語や伝統的文化は消滅寸前で民族の存続が危機に瀕しています。

われわれは今回、マヌワ部族代表のカイン・フクマン氏とスリガオ・セントポール大教授のラリー・ディオ氏を日本に招き、マヌワ民族の歴史と伝統文化および最近の鉱山開発の影響下での困難な現状について聞きます。さらに、比較のためにわが国のアイヌ民族についての研究と併せて、アジアの先住・狩猟採集民が置かれた現状と人権上の諸問題について考えます。

14:00～14:30 司会および解説：尾本恵市（東京大学名誉教授）

「先住民族から見る日本とフィリピン」

14:30～15:00 発表（1）：多原良子（アイヌ女性会議メノコモシモン代表）

「いわゆるアイヌ新法について」

15:00～15:30 発表（2）：吉田邦彦（北海道大学大学院法学研究科教授）

「アイヌ法政策の現状と課題－世界の動向からいかに隔たっているか」

15:30～16:20 発表（3）：ラリー・ディオ（スリガオ・セントポール大学教授）

およびカイン・フクマン（マヌワ部族MAMASANSISU議長）

「フィリピン最古の先住民マヌワの苦悩を考える」（Understanding the Plight of the Mamanwa, First People of the Philippines）付和訳要旨

16:20～17:00 討論

申し込み・会費：不要

問い合わせ先：先住民族問題研究会 尾本 恵市（Email [keiichi0637@gmail.com](mailto:keiichi0637@gmail.com)）